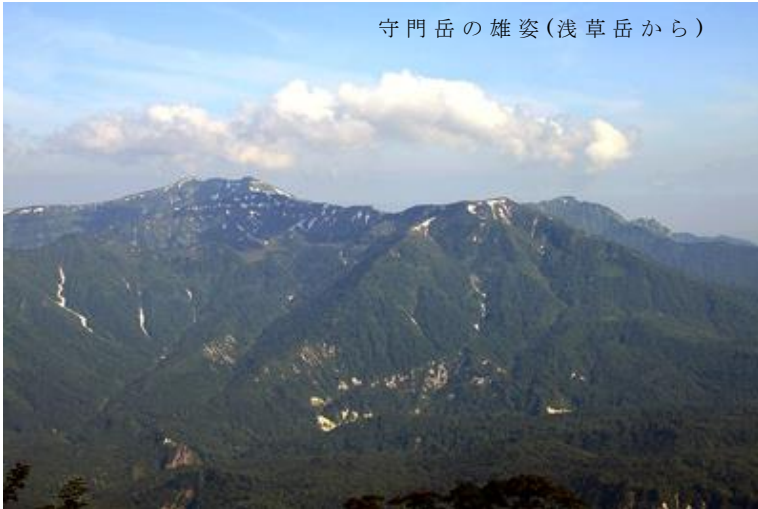


作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成 2 年退官 1958 年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

越後 守門岳－残雪と草原とお花畑と－



守門岳の雄姿(浅草岳から)

6月下旬の梅雨の合間の一日、越後・守門岳（1537 ㍎）に登った。残雪とお花畑を求めての登山である。

前夜、大白川の民宿に泊り、本場の八海山をつい飲み過ぎた。

朝、民宿の車に大原スキー場最上部の駐車場まで送ってもらい、9時登山開始。ブナ林の中、最初から胸を突くような急登である。しかもここ数日の雨でひどい泥んこ道。スパッツをさんざん汚しながらヤケクソで登る。1時間程してやや正面が開けた所がエデシ。見上げれば、これから登る守門岳が堂々として大きい。

ここからヤセ尾根になり、ロープを垂らした岩場や岩壁のヘツリが、しばらく続く。

11時頃、ようやく道は緩やかになり、滝ノ沢を渡る。連日の雨のため、恐ろしい程の濁流の飛び石伝いの渡渉である。しかし沢を抜けると、後は低灌木の斜面



本峰への雪渓

となり、気持ちの良い草原が小鳥帽子を経て、はるか頂上へと続いている。雪渓が次々と現れ、雪面を渡る風が心地良い。雪渓の周囲にはゴゼンタチバナ、オウレン、カラムツソウ、ニッコウキスゲなどの乱舞するお花畑が広がる。

飽きる程の草原風景を楽しみながら12時、守門岳に到着した。三角点標と石祠のあるだけの山頂広場は眺望抜群のはずだが、あいにくの曇り空で、残念至極だった。

守門岳から主稜線を西に20



山頂

分程も進んだところに、守門の奥庭の名で知られる青雲という高山

植物の宝庫があると聞き、話の種に足を伸ばした。ところが全くの期待外れ。池塘をめぐる木道の左右にニッコウキスゲとゴゼンタチバナがほんのチョボチョボと顔を見せる程度だった。有名なだけに、心無い人の仕業で踏み荒らされてしまったのか。元の道を引き返し、1



蒼雲の湿原(後方は守門岳本峰)

2時45分、守門岳山頂帰着。雨もパラついてきたので食事も早々に下りを急ぎ、15時、元の駐車場で宿の車に迎えられた。